

令和元年度 雲南地域保健医療対策会議 医療・介護連携部会 **(記録)**

(地域医療構想調整会議 (関係者会議))

日 時：令和2年2月6日 (木)

19:00～21:00

場 所：三刀屋農村環境改善メインセンター



議 事

1. 取組報告

- (1) 「医療介護連携の動向」
雲南保健所 梶浦所長
- (2) 「雲南圏域における入退院連携の推進に向けた取り組み」
雲南圏域医療介護連携調整検討委員会 (雲南保健所 竹下企画員)
- (3) 「まめネットを用いた連携促進」
雲南市立病院地域ケア科 笠医長
- (4) 「在宅訪問栄養食事指導の取り組みと今後の課題」
町立奥出雲病院栄養管理課 石川管理栄養士 **(資料配布のみ)**
- (5) 「島根リハビリテーション学院による地域の取り組み」
島根リハビリテーション学院 鈴木教務部長
- (6) 「遠距離介護支援セミナー、バスの乗り方セミナー」
飯南町保健福祉課 嘉田理学療法士
- (7) 「介護保険事業計画 第7期の進行管理と第8期計画策定の動向」
雲南広域連合 安部事務局次長

2. 意見交換

(雲南市立病院 西院長)

- ・ 今年度4月に掛合診療所を附属診療所化。田井診療所は現在巡回診療という形で継続。病院から出前講座に年間50件以上出向いている。週1回ペース。病院と地域との距離近づいていくのではないかと。今後とも続けていきたい

(老健協 福田事務局長)

- ・ 私どもの施設(ケアセンターきすき)としても作業の簡素化などを目的にiPadの活用を始めた。
今後地域包括ケアシステムを進めていく中で、その地域の施設同士が情報交換をしていかないといけないと考えている。介護保険施設である老健と特養(介護医療院は圏域内にまだ無い)の相談員が集まって意見交換をした。今後は病院のワーカーも交えて話をしてみたい。

(雲南医師会永瀬会長)

- ・ 雲南市内の開業医を中心に意見交換を実施(在宅医療意見交換会)。今年度はケアマネ、薬剤師と交流を図った。ドクターというのは敬遠されるみたいで情報が入ってこないというのがあったみたいだが、顔の見える関係があると連携がスムーズになる。継続していきたい。

- ・ ICTの活用はなかなかすすんでいないが、訪問看護から画像を送ってもらうことなどあり、非常に便利だとは感じている。
- ・ がんの終末期の在宅患者など我々では麻薬の取扱いが難しくなっている。病院のサポートをお願いしたい。

(島根県薬剤師会雲南支部 筒井支部長)

- ・ (在宅医療意見交換会について)顔をあわせると話しやすい関係ができる。薬剤師会では、雲南カフェという交流会を行っている。
- ・ 麻薬の扱いについては、PCA ポンプなど薬剤師会の方でも準備や研修会もしている。薬局のほうへ連絡してもらいたい。

(雲南歯科医師会 井上代表)

- ・ 現在、歯科医師会としては、約 10 年前から 65 歳以上の方を対象とした摂食嚥下等の取り組みを行っている。
- ・ 個人としては、往診時に、いわゆる食べられないという悩みを抱えている方が結構あって、切実に多職種連携の必要性を感じている。今日会議に出席して、連携のヒントをいただいた。

(町立奥出雲病院 中西庶務課長)

- ・ 訪問栄養指導については、昨年度の夏前から研修を重ねて、手探りの状態から始めて今 30 件あまりの事例ができた。ほとんどが介護保険。この春から現場でiPadを活用している。

(雲南地域介護支援専門員協会 本間会長)

- ・ 利用者宅で食事に関する疑問を感じても、相談先やどんな形で指導してもらえるかなど分かっていないことが課題。サービスも不足している状況では無いか。

(島根県訪問看護ステーション協会雲南支部 安達支部長)

- ・ 口腔内のケア、歯が欠損していたり、入れ歯が合わなくなったという方も多い。歯科に相談して往診していただいたりしている。これからもぜひ連携をお願いします。

(平成記念病院 陶山院長)

- ・ 透析の患者は、要介護の方が多くなっている。地域的な事情から通院できなくなっても既存の施設では対応が難しい。
- ・ 当院では、隣接する特別養護老人ホームと連携して透析の対応を始めた。当初はスタッフもあまり積極的ではなかったが、勉強会をやり、スタートした。実際やってみれば、日常生活では血圧の管理くらいで大きな問題はない。
- ・ 特養で維持透析を行う施設は山陰では少なく、ニーズは高いと思っている。
- ・ これからの透析患者のあり方として、そういったところで看ることが一番ふさわしいのではないかと思っている。

閉会挨拶

(雲南保健所 梶浦所長)

- ・ 今後、医療介護連携、地域包括ケアにおける総合医の役割は大きい。奥出雲町でも確保できるよう保健所としても頑張りたい。
- ・ 公衆衛生行政におけるリハビリテーション専門職の重要性を改めて実感した。
- ・ 介護人材不足については、雲南圏域は施設が多い、小規模事業所が多いという特徴がある。サービス統合のような仕掛けを雲南広域連合に期待したい。